

# 2025年2月期 第1四半期 決算説明資料



2024年7月11日

Can★Do

(証券コード:2698)

<https://www.cando-web.co.jp>

プラス与件	マイナス与件
<p data-bbox="316 805 459 862">当 社</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・節約志向による当社既存店売上高の増加</li><li>・他価格帯商品のニーズ上昇</li><li>・外出/お出かけ対応商品への実需増加</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・人員不足の顕在化</li><li>・インフレによる原材料等の高騰</li><li>・為替相場が円安基調で推移</li></ul>

(単位:百万円、%)

	2023年2月期1Q (2021/12-2022/2)		2024年2月期1Q (2023/3-2023/5)		2025年2月期1Q (2024/3-2024/5)		前年 同期比
	金額	率	金額	率	金額	率	
売上高	18,144	100.0	19,930	100.0	20,920	100.0	105.0
売上総利益	6,965	38.4	7,312	36.7	7,846	37.5	107.3
営業利益	233	1.3	254	1.3	311	1.5	122.6
経常利益	253	1.4	271	1.4	318	1.5	117.4
親会社株主に帰属 す四半期純利益	108	0.6	51	0.3	79	0.4	155.6
一株当たり 四半期純利益	6.78 円		3.20 円		4.98 円		155.6
会計期末 店舗数	1,197 店舗		1,257 店舗		1,308 店舗		51店舗

(※) 決算期変更に伴い、2023年2月期1Qは12～2月、前期及び今期の1Qは3～5月となります。

(※) 売場のコーナーに展開することが多かったため、開示店舗数に含めていなかったキャンドゥセレクト計40店舗を2024年3月末より店舗数に含めております。

# 既存直営店売上高 前年比推移(月次)

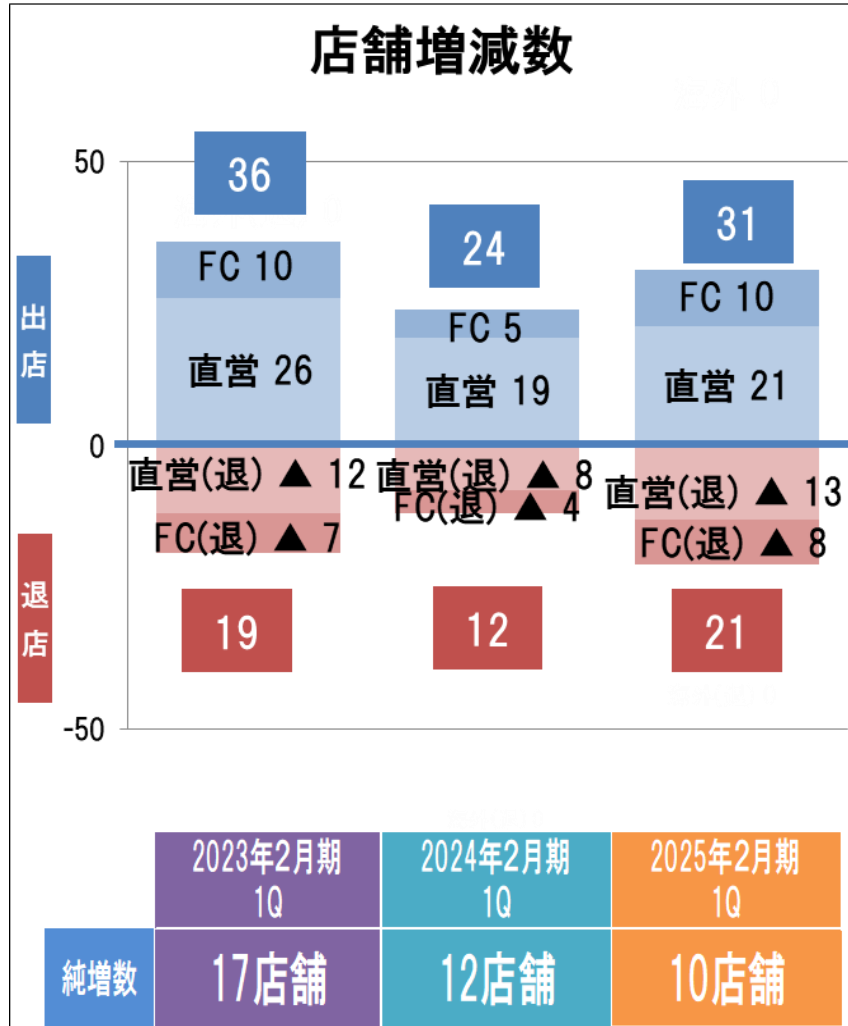


2025年  
2月期

・1Q累計(3~5月)  
104.1%

- ・インフレ進行に伴う生活防衛意識の高まりとお客さまニーズに沿った趣味趣向品による集客増
- ・外出・イベント・旅行の活性化、インバウンドの復活

## 出退店数の状況



### 出店・リニューアル

- 新規出店: 31店舗 (計画: 170/通期)  
直営21店舗、FC10店舗  
※概ね計画水準の実績
- 直営リニューアル: 12店舗 (計画: 20/通期)  
※計画水準を大きく上回る実績

### 退店

- 21店舗 (計画: 75/通期)  
直営13店舗、FC8店舗  
※概ね計画水準の実績

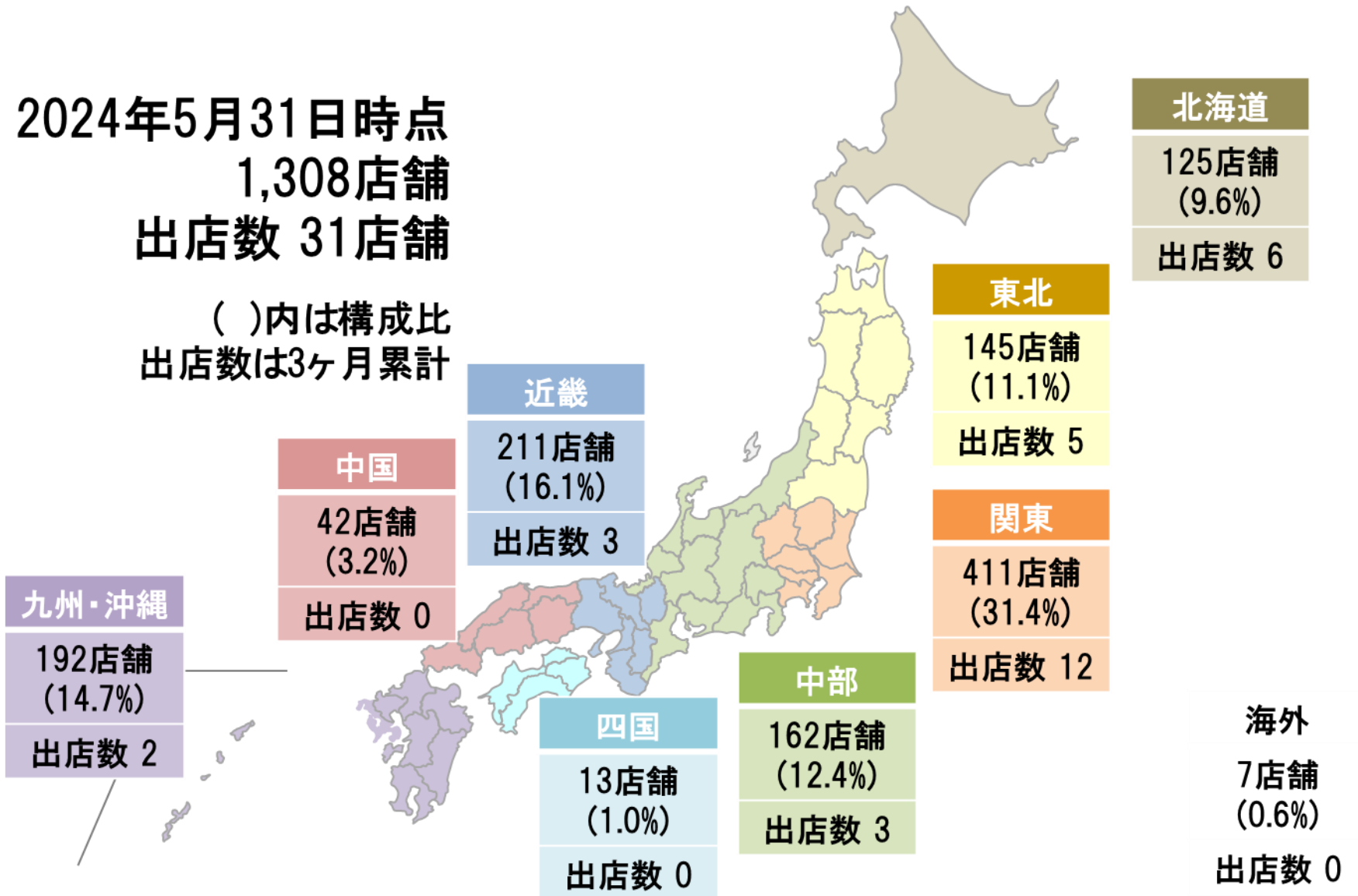
1,308店舗

【増減】直営 +8店舗、  
FC +2店舗、  
海外FC ±0店舗

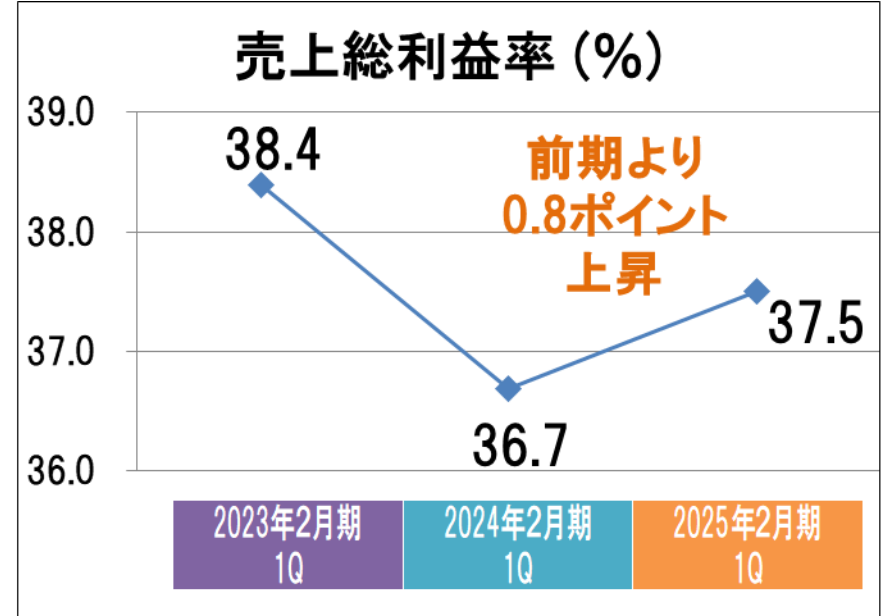
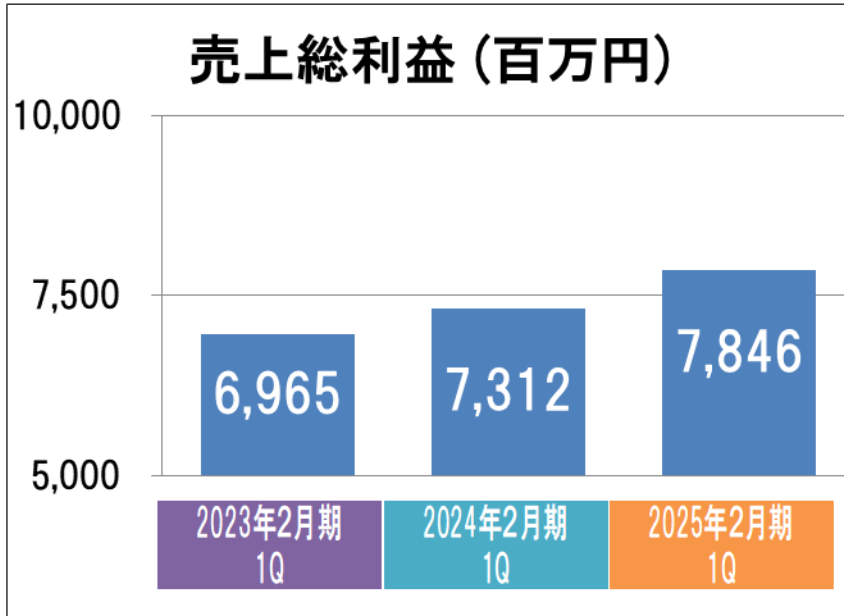
# 地域別出店状況

2024年5月31日時点  
1,308店舗  
出店数 31店舗

( )内は構成比  
出店数は3ヶ月累計



# 売上総利益の内訳

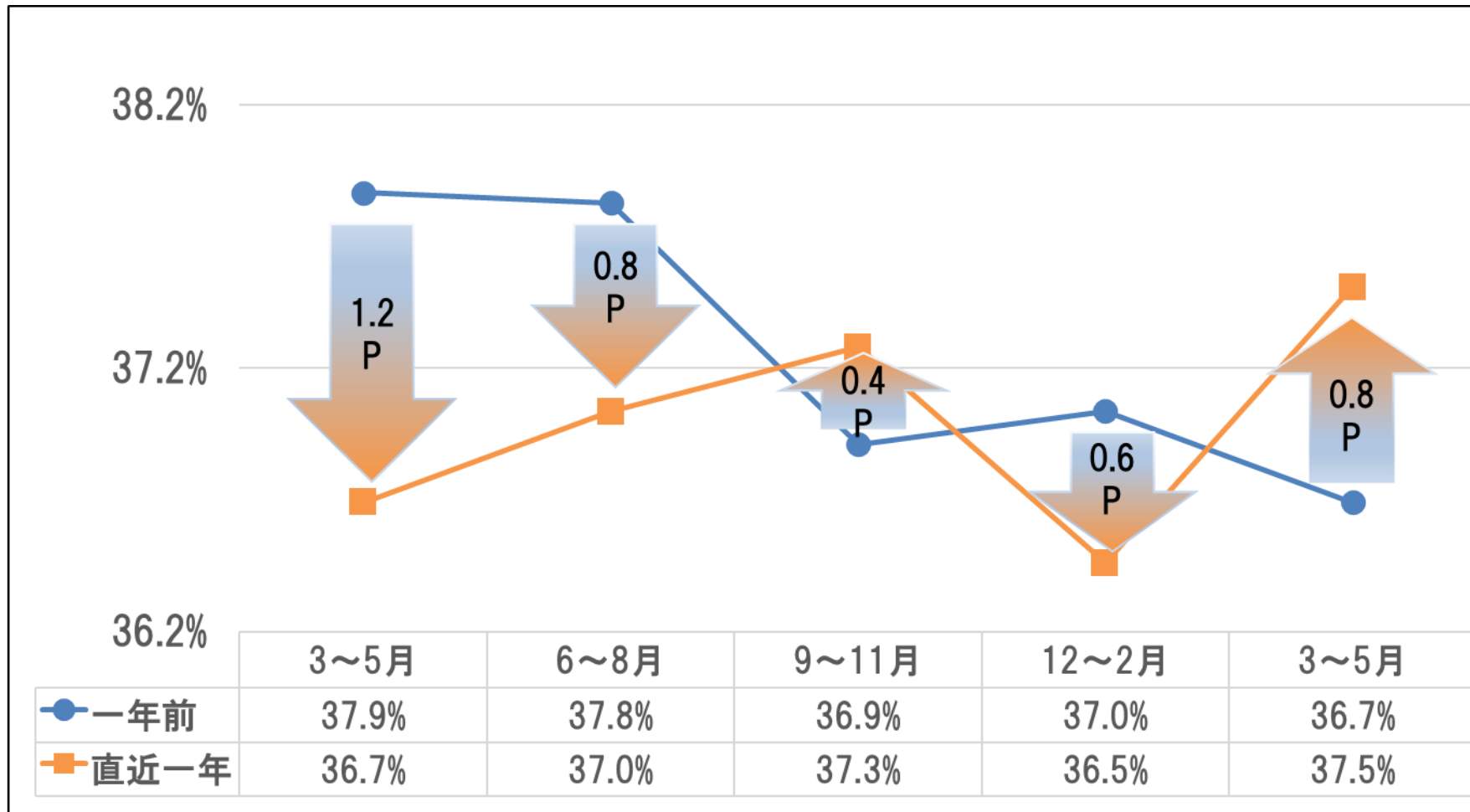


## 雑貨売上高比率の変動

- 他価格帯商品の売上比率増加

## 売上総利益率の変動

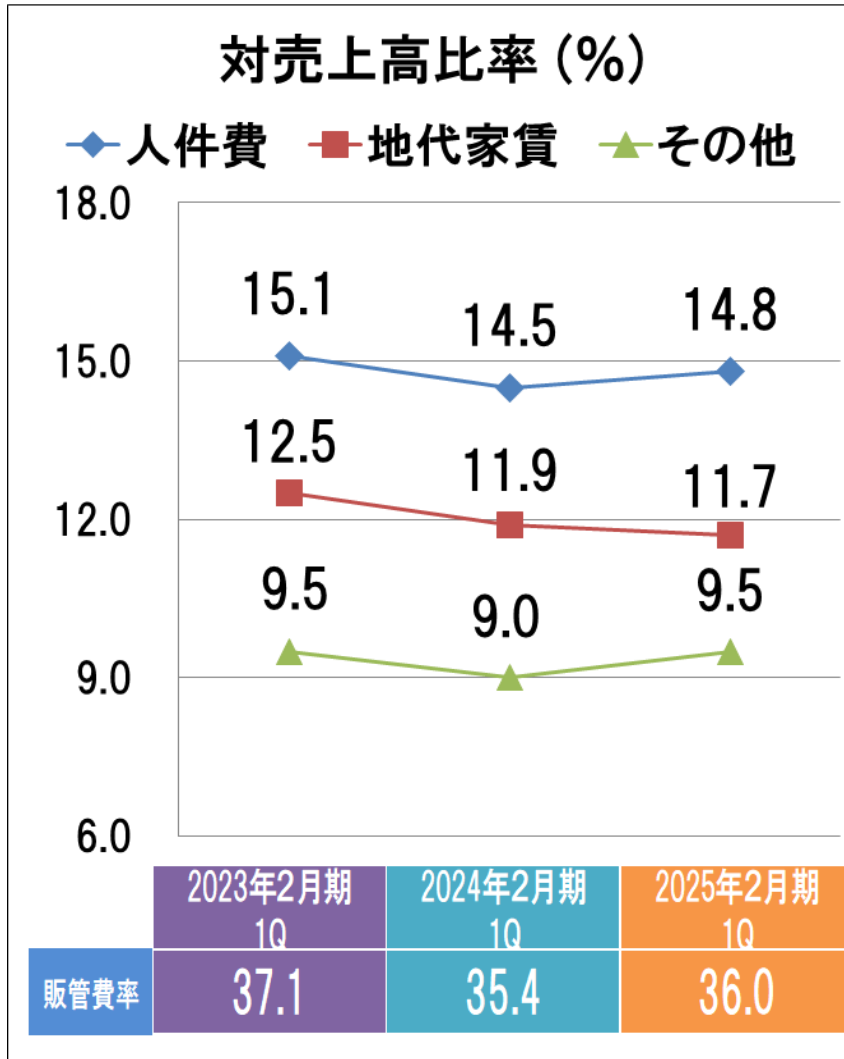
- 原材料の高騰や為替の影響
- 100円商品の原価維持への取り組み
- 付加価値を見直し、他価格帯へ移行



2024年2月期4Qで、積極的な商品入替を前提にした商品廃棄を実施



# 販管費の内訳



## 人件費

- ・イオン水準の賃金政策実施に伴う給与手当・雑給などの増加

## 地代家賃

- ・売上高の伸長に伴い地代家賃比率が低下

## その他販管費

- ・クレジット等手数料、母店販促費増
- ・修繕費、消耗品費の増加

販管費率 +0.6ポイント

# 連結貸借対照表の状況

(単位:百万円)	2024年 2月期	2025年 2月期1Q	前年 増減額		2024年 2月期	2025年 2月期1Q	前年 増減額
流動資産合計	15,477	15,940	462	流動負債合計	13,900	14,649	749
現金及び預金	2,831	2,162	▲ 668	仕入債務	8,011	8,851	3
売上債権・未収入金	3,666	4,166	1	その他流動負債	5,888	5,798	4
商品	8,338	8,902	2	固定負債合計	4,563	4,558	▲ 5
その他流動資産	640	708	67	退職給付に係る負債	2,322	2,343	20
有形固定資産合計	6,383	6,693	310	資産除去債務	1,806	1,789	▲ 17
建物及び構築物	5,240	5,491	250	負ののれん	123	114	▲ 9
その他有形固定資産	1,142	1,202	59	その他固定負債	310	311	1
無形固定資産合計	283	265	▲ 17	負債合計	18,463	19,208	744
投資その他の資産合計	7,707	6,913	▲ 793	資本金	3,028	3,028	0
敷金及び保証金	5,673	5,603	▲ 70	資本剰余金	3,103	3,103	0
その他投資その他の資産	2,033	1,310	▲ 723	利益剰余金	6,272	5,509	▲ 763
固定資産合計	14,373	13,872	▲ 500	自己株式	▲ 1,117	▲ 1,117	0
資産合計	29,851	29,812	▲ 38	その他の包括利益累計額	100	81	▲ 19
				新株予約権	0	0	0
				純資産合計	11,387	10,604	▲ 782
				負債純資産合計	29,851	29,812	▲ 38

※対前年増減額が大きな項目について、その主なものを以下に記載

- ① 未収入金の増加 364百万円
- ② 商品の増加 564百万円
- ③ 電子記録債務の増加 324百万円、買掛金の増加 514百万円
- ④ 未払法人税等の減少 286百万円

# 設備投資の状況

「ライフスタイル提案型ショップ(New Can★Do)」フォーマットによる新規出店・リニューアルを推進しました。また、生産性向上を図るべく、情報システム関連投資の検討を進めております。

(単位:百万円)

	2024年2月期1Q	2025年2月期1Q	増減
設備投資額	485	671	185
減価償却費	236	239	3

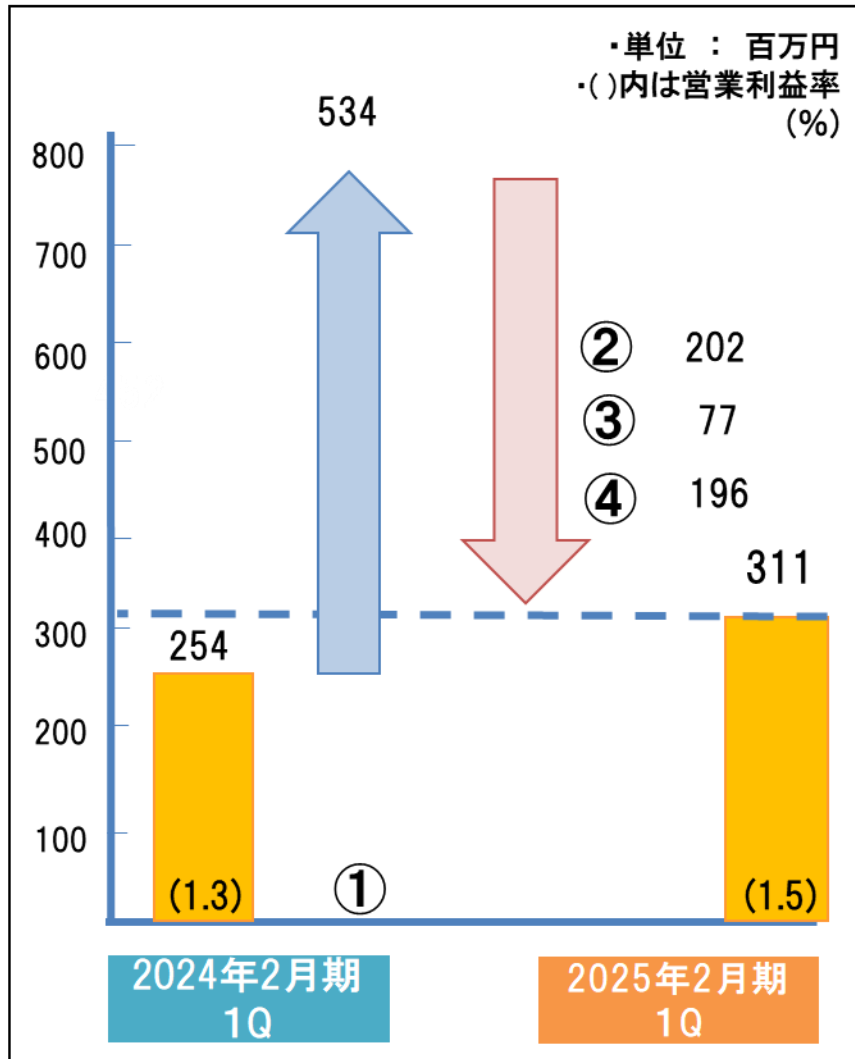
## ◆主な設備投資内訳

(単位:百万円)

	2024年2月期1Q	2025年2月期1Q	増減
直営新規出店・ 既存店リニューアル等	484	667	(※) 182
情報システム関連投資	0	3	2
合計	485	671	185

(※)1案件あたりの設備投資金額抑制施策効果も含む

## 営業利益 差異分析



### 増加要因

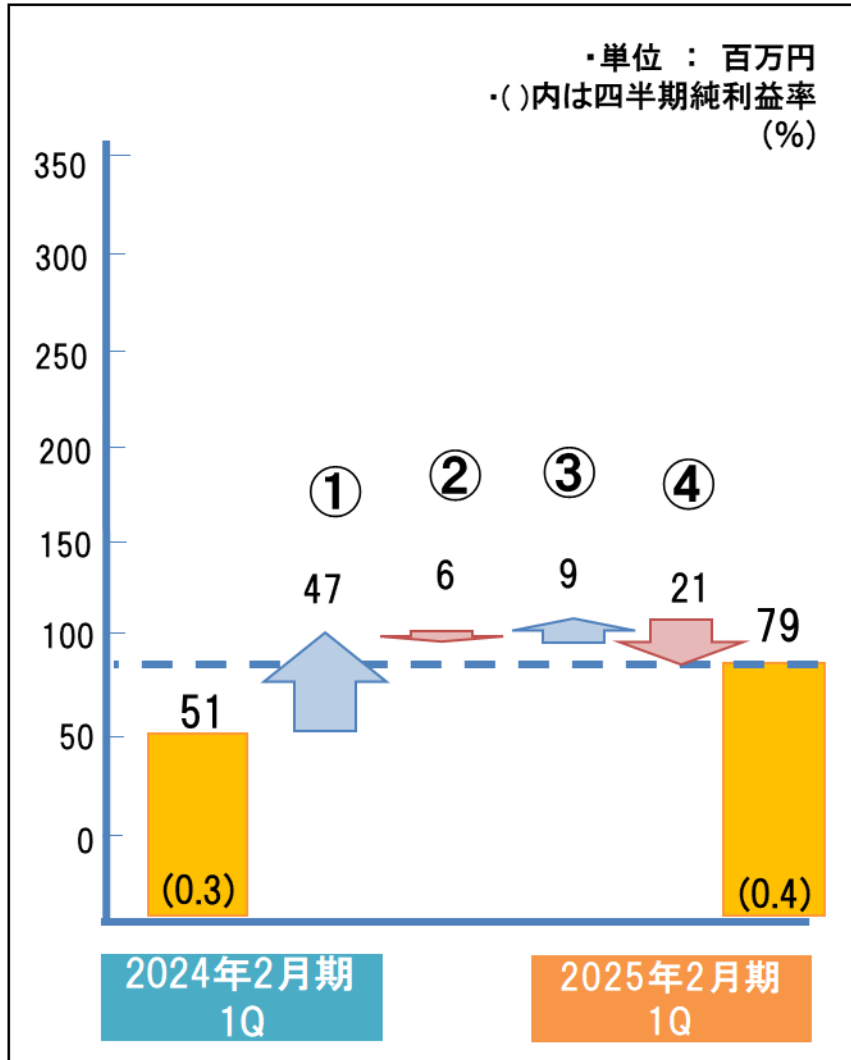
- ① 売上総利益増加による部分  
(売上減×売上総利益率)  
→ 534百万円

### 減少要因

- ② 人件費増加による部分  
→ 202百万円
- ③ 地代家賃増加による部分  
→ 77百万円
- ④ その他販管費増加による部分  
→ 196百万円

**57百万円の増加**

# 四半期純利益 差異分析



## 増加要因

- ① 経常利益増加による部分  
→ 47百万円
- ③ 特別損失減少による部分  
→ 9百万円

## 減少要因

- ② 特別利益減少による部分  
→ 6百万円
- ④ 法人税等増加による部分  
→ 21百万円

**28百万円の増加**

# 2025年2月期の取り組み

方針：イオングループとの協業によるお客さま満足最大化

「販路の拡大」

- ・ [出店]利益が出る出店でお客さまの利便性の向上
- ・ [既存店]既存店の改装で利益体質を強化してお客さまの利便性を更に向上

「商品・ブランドの差別化」

- ・ [商品]お客さまから支持される商品の追求
- ・ [ブランド]品揃えと発信を確立した新たなライフスタイル提案型ショップへの進化

「企業価値の向上」

- ・ [成長]イオングループとのシナジーによる成長性の確立
- ・ [利益]デジタルシフトによる生産性の飛躍的な改善

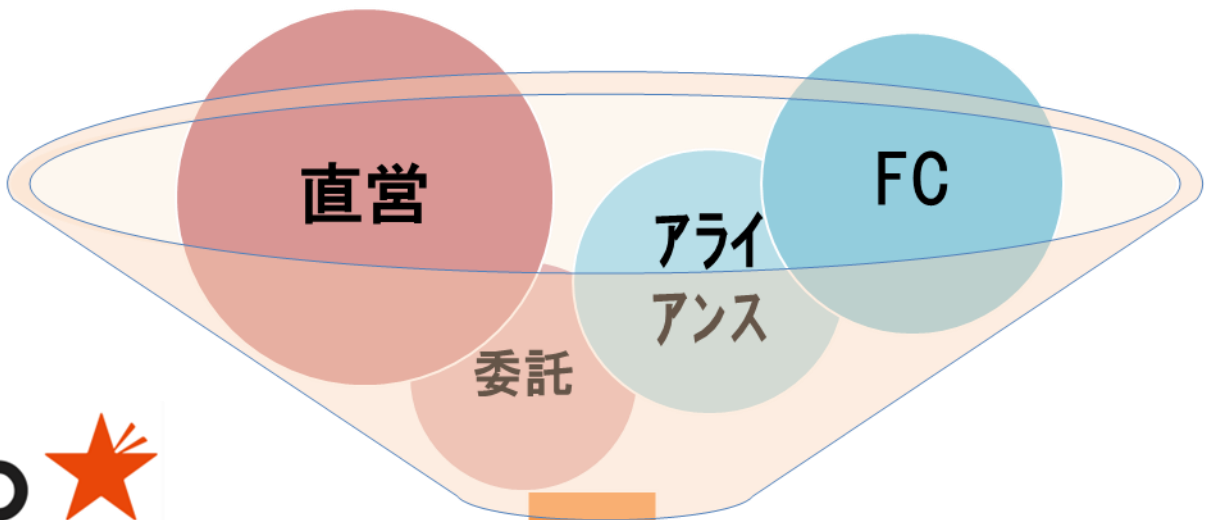
イオングループとのシナジーを最大化＝成長と利益確保の両立

# 2025年2月期の具体的取り組み：I

## 『販路の拡大』



お客さまからの期待を超える店舗づくりの追求と  
マルチフォーマットの活用によるグループ内外のシェア拡大



CanDo★

お客さまの  
期待を超える  
店舗づくり

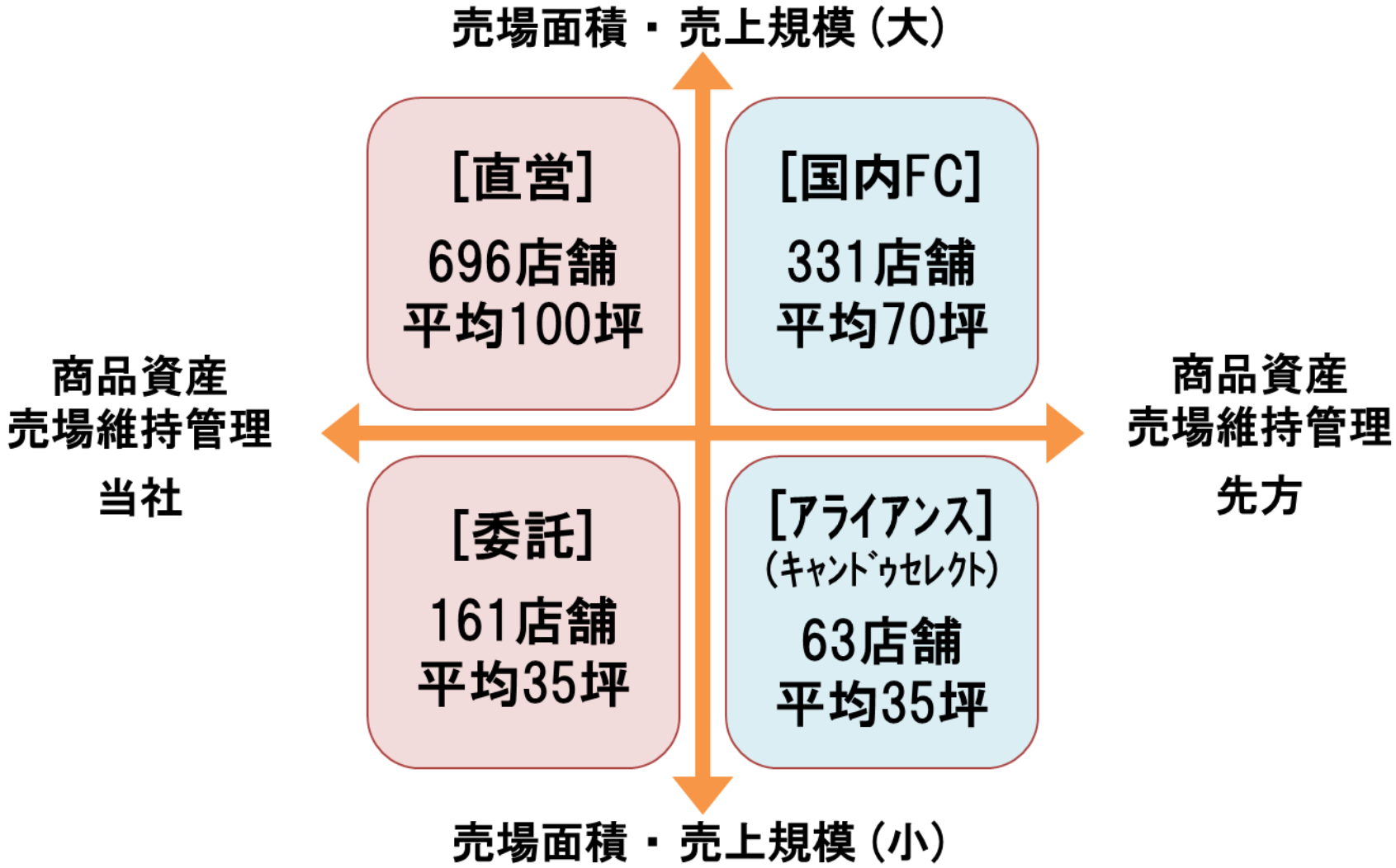


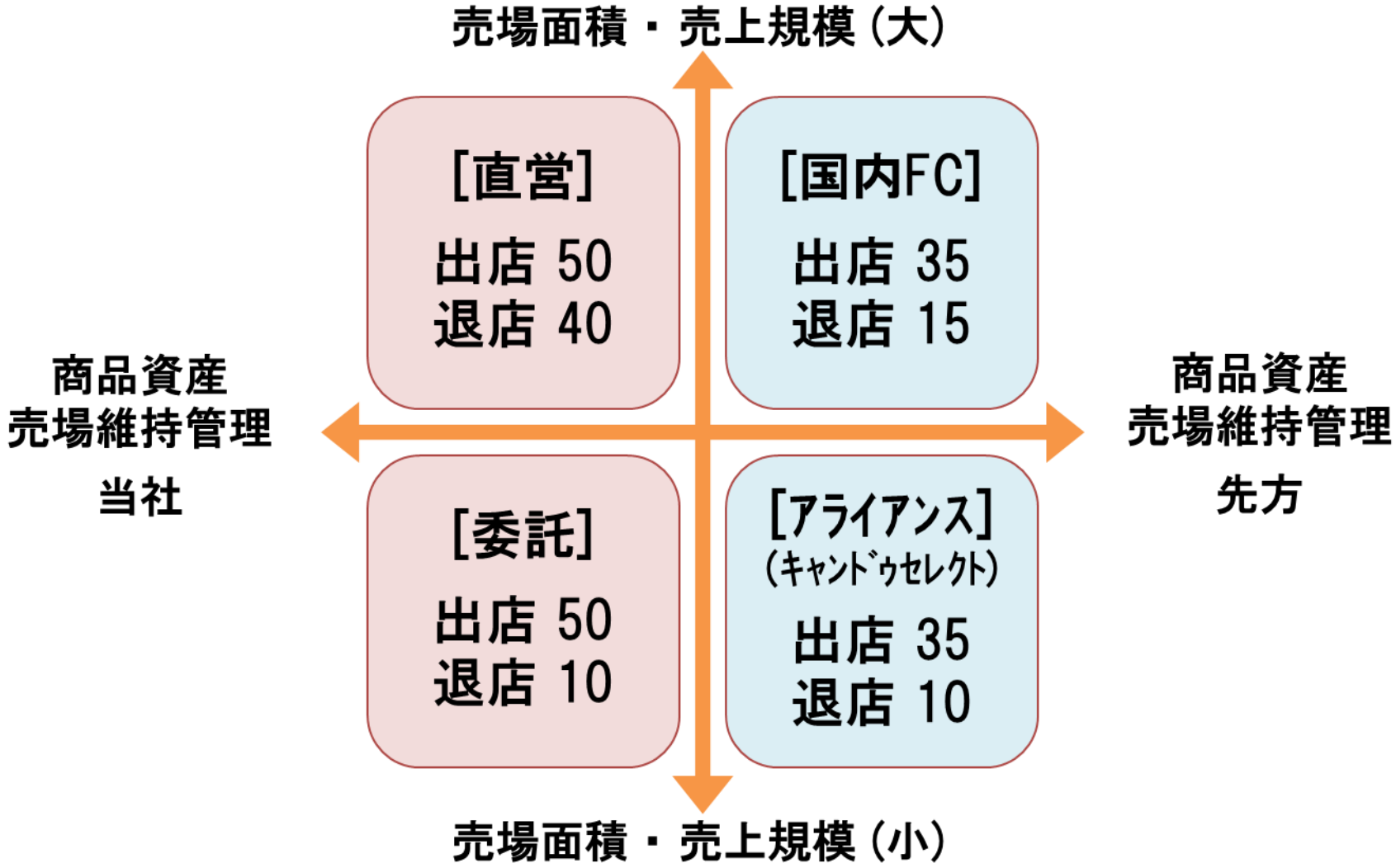
マルチフォーマット  
の活用

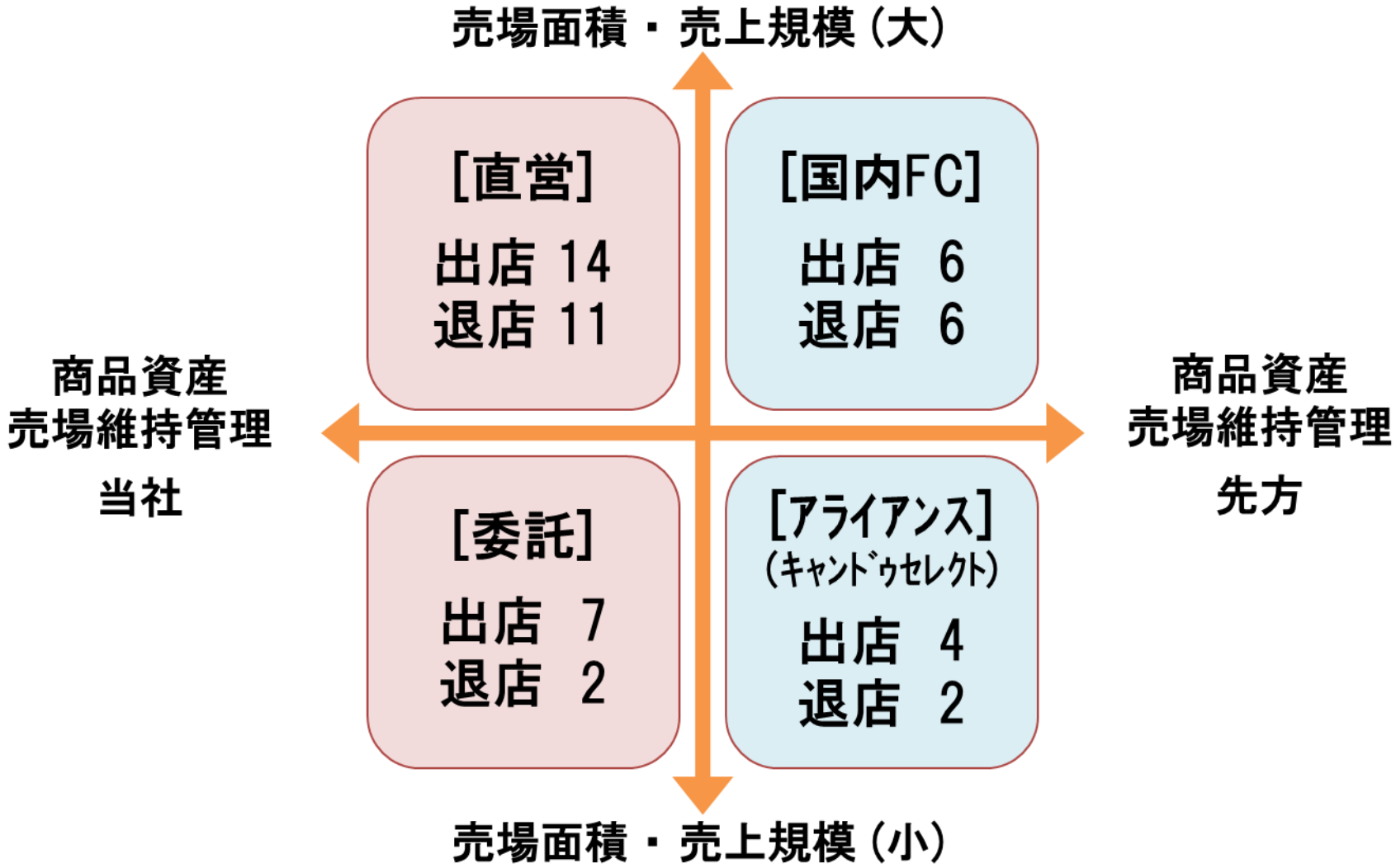


シェア拡大









イオンモール甲府昭和店  
(山梨県・2024年3月22日オープン・200坪)



# 2025年2月期の具体的取り組み：Ⅱ

## 『商品・ブランドの差別化』

## 3つの商品開発方針を掲げ、差別化戦略を推進

- ① 強化ターゲットに向けた商品開発
- ② 大型店に対応する品揃え
- ③ 生活防衛のための100円消耗品

### ① 強化ターゲットに向けた商品開発

#### (1) Z世代に向けた商品開発

スティックバルーン



キーホルダーパーツセット



すずらんアクセサリ



伸縮チューブロボット



## (2) 子育て世代に向けた商品開発

ミニレジスター  
990円(税込)



アルファベットパズル  
330円(税込)



なるほど押し型



七夕



## (3) 団塊世代に向けた商品開発

エコフック付きスポンジラック  
550円(税込)



メガネストッパー



お薬クラッシャー



食パン皿





## ② 大型店に対応する品揃え

除草剤  
220円(税込)



シャカシャカおもちゃ



マルチキャスターワゴン  
1870円(税込)



パンク修理セット  
220円(税込)



## ③ 生活防衛のための100円消耗品

マイクロファイバースポンジ



バンブーパルプティッシュ



三角色鉛筆



カラー輪ゴム



・フォロワー数は、2024年5月現在、81万人超

・国内企業ランキングは、83位(対象10,000社超)

・お洒落な画像による商品活用シーン提案

Thanks! 800k



オリジナルディズニー  
/ドナルドダック



こんなこいるかな



SWIMMER



アルプスの少女ハイジ



- ・イメージ訴求のInstagramに対し、情報量を優先するX(旧Twitter)ですみ分け
- ・メディアで取り上げられた商品もリツイート
- ・推し活アイテムなどX(旧Twitter)ユーザーに親和性の高い商品を紹介

犬夜叉



たまごっち



ワンドウ



パイン 推しキャン



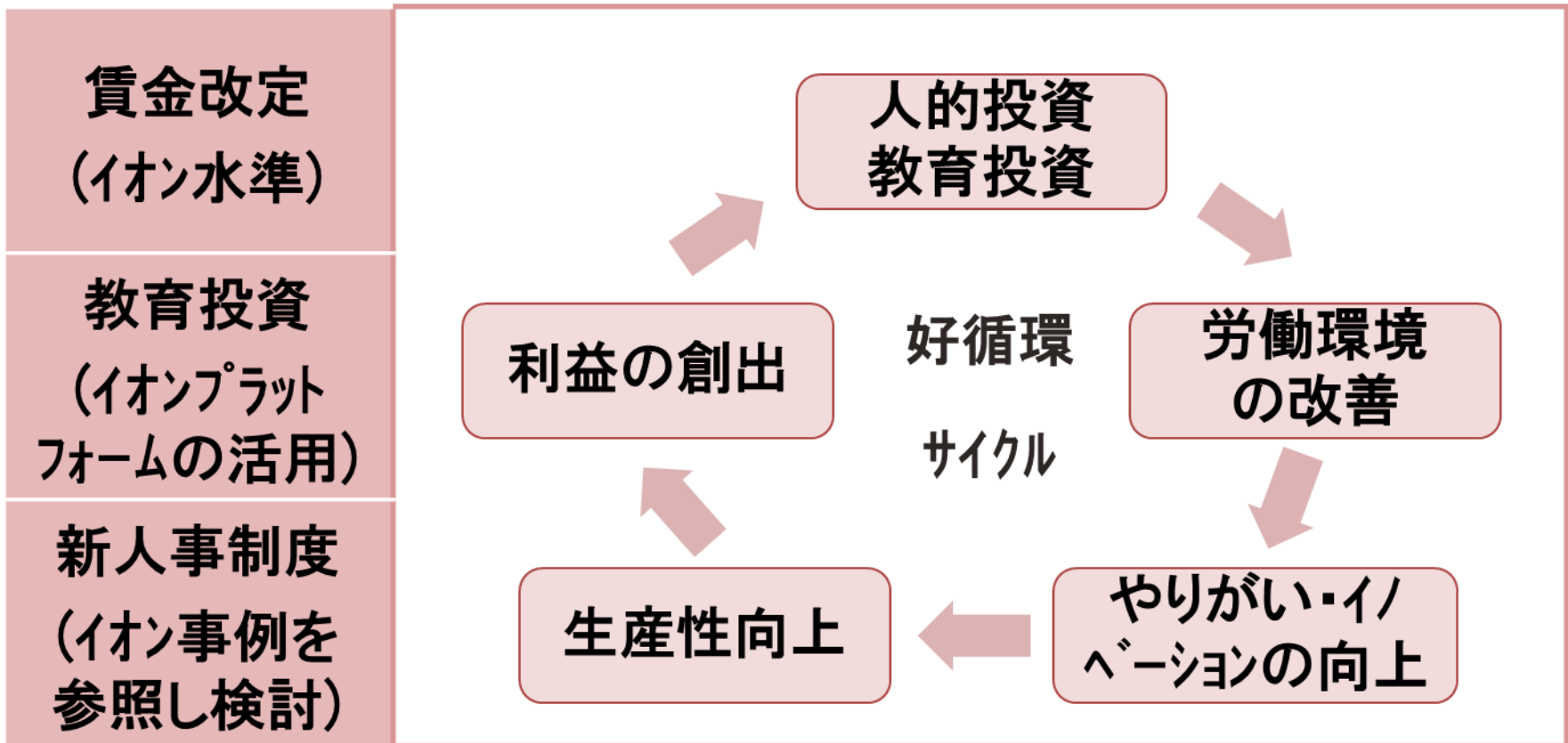
## 店舗運営統一による生産性の向上

品揃え	本部主導による 確実性の高い品揃えの更なる推進
販促	「発見」・「発信」のコンセプトを可視化し お客さまへご提供
オペレーション	商品を安定してお客さまにお届けする 日々のオペレーション改善

# 2025年2月期の具体的取り組み:Ⅲ

## 『企業価値の向上』

生産性を高めるための人的資本への先行投資



# Appendix

## 各期同月累計(3-5月)推移について

# 連結損益計算書(各期3～5月累計推移)

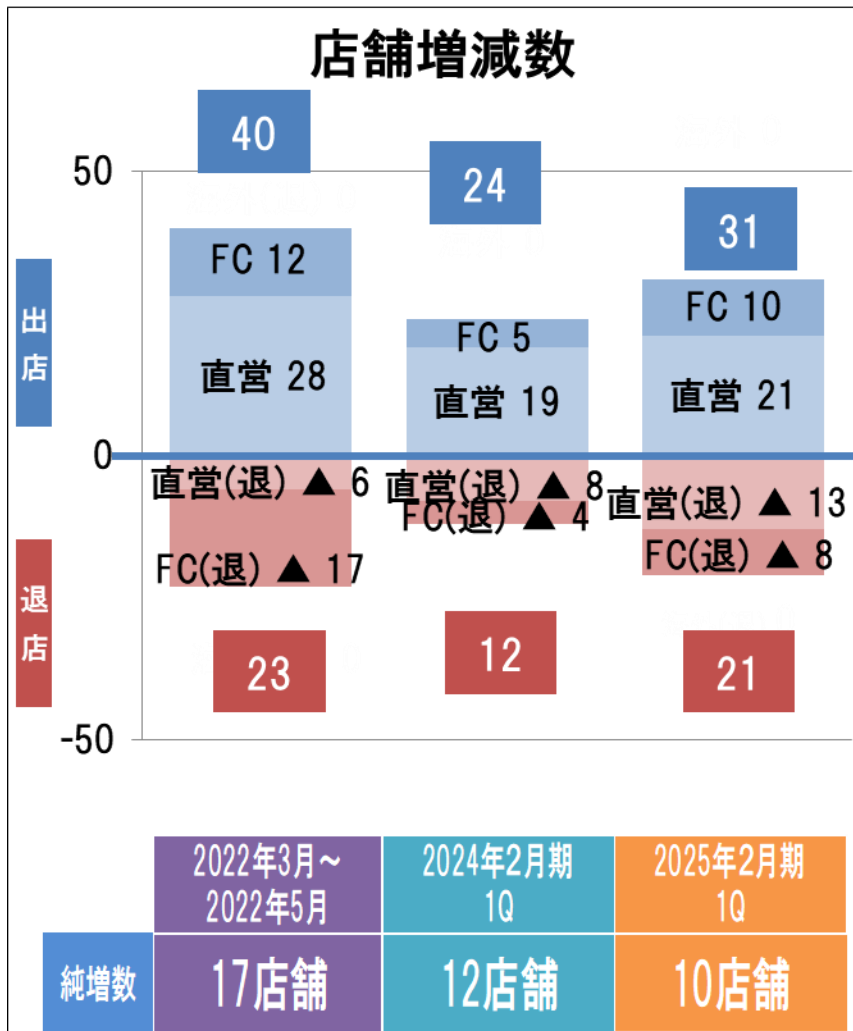


(単位:百万円、%)

	2022年3月～ 2022年5月		2024年2月期 1Q		2025年2月期 1Q		前年 同月 (3～2月) 比
	金額	率	金額	率	金額	率	
売上高	18,728	100.0	19,930	100.0	20,920	100.0	105.0
売上総利益	7,091	37.9	7,312	36.7	7,846	37.5	107.3
営業利益	242	1.3	254	1.3	311	1.5	122.6
経常利益	260	1.4	271	1.4	318	1.5	117.4
親会社株主に帰属 する純利益	103	0.6	51	0.3	79	0.4	155.6
一株当たり 純利益	6.47 円		3.20 円		4.98 円		155.6
会計期末 店舗数	1,214 店舗		1,257 店舗		1,308 店舗		51店舗

(※) 売場のコーナーに展開することが多かったため、開示店舗数に含めていなかったキャントウセレクト計40店舗を2024年3月末より店舗数に含めております。





## 出店・リニューアル

- 新規出店: 31店舗 (計画: 170/通期)  
直営21店舗、FC10店舗  
※概ね計画水準の実績
- 直営リニューアル: 12店舗 (計画: 20/通期)  
※計画水準を大きく上回る実績

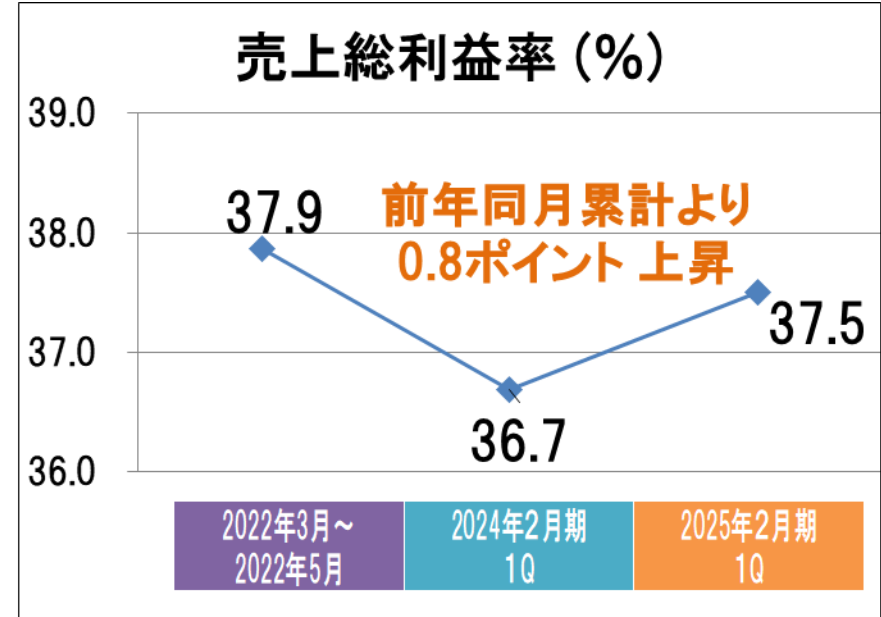
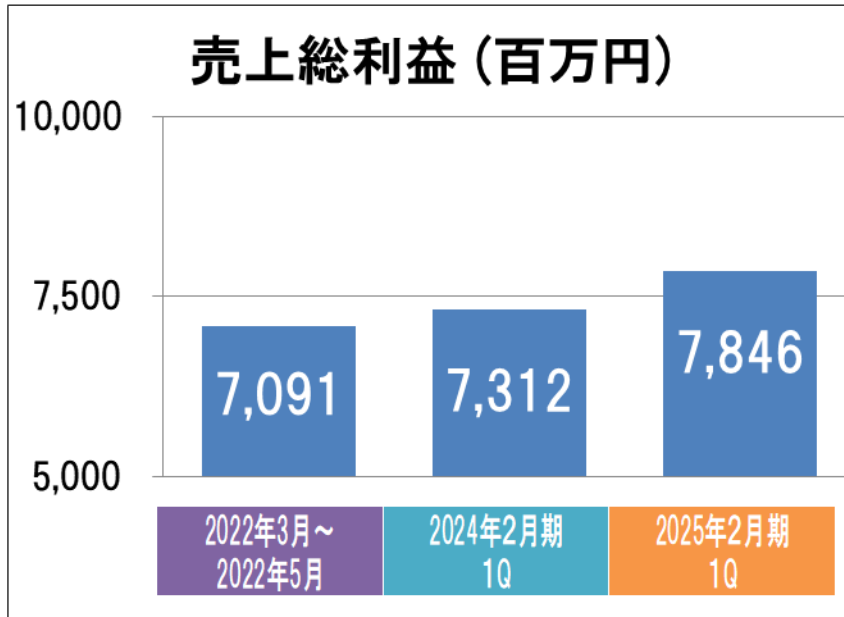
## 退店

- 21店舗 (計画: 75/通期)  
直営13店舗、FC8店舗  
※概ね計画水準の実績

**1,308店舗**

【増減】直営 +8店舗、FC +2店舗、海外FC ±0店舗

# 売上総利益の内訳(各期3~5月累計推移)



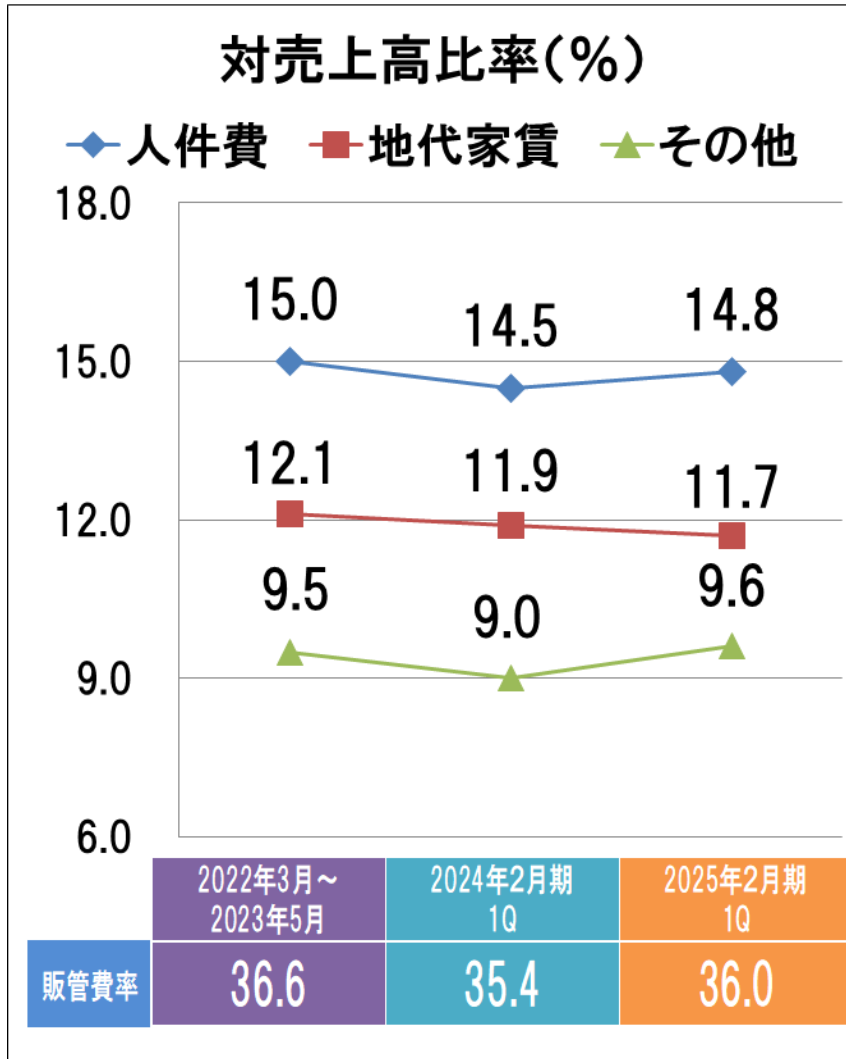
## 売上総利益の変動

- 他価格帯商品の売上比率増加

## 売上総利益率の変動

- 原材料の高騰や為替の影響
- 100円商品の原価維持への取り組み
- 付加価値を見直し、他価格帯へ移行

# 販管費の内訳(各期3～5月累計推移)



## 人件費

- ・イオン水準の賃金政策実施に伴う給与手当・雑給などの増加

## 地代家賃

- ・売上高の伸長に伴い地代家賃比率が減少

## その他販管費

- ・クレジット等手数料、母店販促費増
- ・修繕費、消耗品費の増加

販管費率+0.6ポイント

## 【 ご注意 】

本資料に掲載されている株式会社キャンドウの現在の計画、見通し、戦略、認識、評価、想定等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。これらの情報は、現在入手可能な情報から株式会社キャンドウの経営者の判断に基づいて作成されております。

実際の業績は、様々な重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみにより全面的に依拠することはお控えいただくようお願いいたします。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。

投資に関する決定は、利用者ご自身の判断において行われるようお願い申し上げます。